

令和6年度第1回嘉麻市地域包括ケアシステム推進会議

日時 令和6年10月2日（水）14:00～

場所 5A会議室

出席者

委員

副市長（○） 福祉事務所長（○） 高齢者介護課長（○）
社会福祉課長（欠） 子育て支援課長（○） 健康課長（○）
こども育成課長（○） 生活支援課長（○）

関係課長

総務課長（○） 防災対策課長（○） 産業振興課長（○）
交通政策課長（○） 市民課長（○） 環境課長（○）

事務局

高齢者介護課・市民課職員
嘉麻市社会福祉協議会（生活支援コーディネーター）

1. 嘉麻市地域包括ケアシステム推進会議委員長挨拶

2. 議題

①地域包括ケアシステム推進会議について

高齢者介護課課長補佐・・・資料より事業説明

②地域ケア会議での活動について

～地域ケア会議 認知症ネットワーク調整会議 活動報告～

地域ケア会議活動支援アドバイザー・・・資料より活動報告

③第2層協議体での活動について ～生活支援体制整備事業報告～

嘉麻市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター・・・資料より活動報告

3. 質疑応答・意見交換

【総務課長】

行政区の課題というのは昨年も社会福祉協議会の活動報告の中で説明をいただいており、加入者や高齢者間の問題、またその繋がりについてであったと認

識している。その中、市では地域コミュニティ形成会議というものを令和5年度より実施しており、令和6年9月の広報では、嘉麻市と行政区長連合会の連名で、嘉麻市は行政区を推奨していることを掲載した。その他、昨年この会議で、小さな拠点ソフト事業を活用したアドバイザーの設置について話をしたと思うが、小さな地域コミュニティ形成会議の中で、先進地の視察をするに当たり、一番話題に出ていたのが、防災と高齢者の見守りについてであり、人間関係の希薄化についてであった。それを踏まえ、小さな拠点ソフト事業を活用したアドバイザーについては令和6年に設置し、現在2つの地区を支援しており、総合政策課での対応のもと、今年度は宮野地区、足白地区の2地区を支援している。

【交通政策課長】

市バスの運行については、令和2年度より今の形態で運行しているが、毎年利用者数が増加している状況であり、協議体や地域の活動による市バス運行に関する情報提供及び利用促進に関する活動が、増加の要因の1つであるのではないかと感じている。

第2層協議体の活動報告の碓井地区での報告に、西郷や琴平地区で車椅子の方が市バスに乗れるようにしてほしいと話題が上がっているとのことであったが、現在運行している市バスでは、車椅子での利用はできるので、そのことを伝えていただければと思う。また、バス停の位置を変更してほしいということについては、具体的にどこのバス停を移動してほしいという要望があれば、交通政策課に相談いただき、対応可能かどうかも含め検討したいと思う。その他、山田地区の木城地区で、便数が少ないと思っている方が多いとのことであったが、木城地区については山田地区の中でも少し奥の方になるということもあるので、なかなか便数を増やすというのは難しいのではないかと感じている。その代用として、デマンドバスを運行しているので、市としてはデマンドバスの方に利用を移行していただきたいと考えており、使い方がわからないということであれば、出前講座等も行っているので、是非、交通政策課まで連絡いただければと思う。最後に、以前バス停のベンチについて要望いただいたと思うが、実績として昨年度は10基のベンチを設置している。今年度は20基設置する予定であり、

現在設置を進めている。

【防災対策課長】

空き家の問題については、日本全国で社会問題になっており、なかなか解決していくのが難しい状況である。個別の案件については、防災対策課に相談いただき、対応できるものについては対応していきたいと考えている。災害時の避難については、市民皆さんが、近年のこの大きな災害の中で、非常に懸念されている。市の取り組みの中で地域と関連してくるのが、自主防災組織との連携になるのではないかと思う。嘉麻市の自主防災組織の組織率は、令和4年までは約17%~18%だったが、継続して出前講座等続ける中、現在、約34%まで上昇している。特に稲築地区では、地域の中で話し合い、自主防災組織を作ろうという雰囲気が出てきたのではないかと感じている。